

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	生野
学 校 名	大阪市立北巽小学校
学校長名	河原 倫生

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・　　小学校では、第6学年 63名

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

教科における調査で、国語は、全国の平均正答率が64.7%に対して、北巽小は57.0%で、7.7%マイナス、全国比0.881と大きく差がある。しかし、無回答率は全国平均4.3%に対して、本校は4.2%と全国よりも0.1%少なく、良い結果が得られた。
 算数は、全国の平均正答率が70.2%に対して、北巽小は60.0%で、10.2%マイナス、全国比0.855と国語同様大きく差がある。また、無回答率は全国平均2.6%に対して、本校は4.6%と全国よりも2.0%多く、わからないから書かない児童が多くいる現状が浮き彫りとなった。
 また質問紙調査では、ゲームや遅い就寝時刻といった不規則な家庭環境が見えたが、反面、朝食は全国平均よりもしっかりと食べることができているといううれしい結果が得られた。国語への苦手意識があり学習意欲が低いこと、逆に、算数は好きだという児童が多いことは、今後の授業改善を考えるうえ重要な要素となる。
 自尊感情の低さは、北巽小の大きな課題の一つであることも再認識された。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

成果：経年で見ると、一昨年度（令和2年度は実施されず）に比べ、4領域すべてにおいて平均正答率が上がっている。また全国差も縮まっている。特に、「言葉の特徴」や「知識技能」の伸びが大きく、日々の漢字学習や文法の習得など、積み重ねが必要なものについて、しっかり習得できていることがわかる。また、無回答率の低さに、児童のテストに向かう真剣な姿勢を感じることができた。

課題：特に「読むこと」の領域における平均正答率が全国比0.725と低い。これは、読解力が単に文章の解釈にとどまらず、読み取った上で、どのような考え方や意見をもつのか、書いて表現することまでが求められていることに起因すると思われる。つまり、日々の学習の中で、あまり出あわないような課題に対して対応ができていないことにその原因があると思われる。これは、「書くこと」の領域における平均正答率の低さにも表れている。

〔算数〕

成果：どの領域においても全国平均正答率には届かないが、経年で見ると、「数と計算」領域が大きく伸びている。また、今年度より新たに加わった「変化と関係」においては、全国比0.928と全国平均に一番近い正答率となっていた。問題形式で見ると「選択式」「短答式」の問題正答率は高い。

課題：全国平均正答率との差は「図形」領域が全国比0.722と一番大きく、経年的に見ても下がり幅が大きい。喫緊に授業改善をしなければならない領域である。また「記述式」の問題形式の正答率が低く、全国比は0.647と国語の「書くこと」の領域不振にも通じ、問題の解き方や考え方を自分の言葉でノートに表す練習が必要である。

質問紙調査より

成果：児童質問紙の全国平均に比べ「人が困っているときは進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「将来の夢や目標をもっている」「学校に行くのは楽しいと思う」などの項目において、肯定的な回答をする児童が多く、前向きで、他者に優しい児童が多い印象がある。また、学校質問紙より「学習規律を守る取組」「授業において目標をもたらせる取組」や「授業研究や研修」をしっかり行っていることがうかがえる。さらに学習面では、「算数が好き」という児童が多くみられた。

課題：テレビゲームをする時間が全国平均に比べ倍近く多かったり、寝る時間が遅くなったりすることが問題である。家庭での過ごし方の問題になるが、コロナ感染拡大中の臨時休校の際、規則正しい生活を送れなかったり、計画的に学習を進めることができなかったりした児童も非常に多かった。さらに、自尊感情を問う質問に対する肯定的な回答も少ない。学習面では、国語に対する意欲や達成感が低く、4つの質問に対して肯定的な回答がなかなか得られなかった。

今後の取組(アクションプラン)

国語の課題に対して

- ・授業における読解力の定義を改め、授業研究を進める。
- ・国語の宿題として漢字練習とは別に、短時間でできる読解力育成プリントの導入を検討する。
- ・朝学習での読書をさらに充実させ、図書室の貸し出し冊数を現在より増やす。
- ・グループ活動を充実させ、ビブリオバトルのような本を使った楽しい活動の導入を検討する。

算数の課題に対して

- ・現研究教科である算数を領域でさらに絞り込み、「図形」領域の研究授業を検討する。
- ・授業中、単に板書を写させるだけではなく、自分の考えやまとめを自分の言葉で書かせる活動を増やす。
- ・友だちと協力して問題を解くような場面を授業の中に取り入れるようにする。
- ・「思考・判断・表現」を問う問題を授業の中で取り上げるようにする。

質問紙調査の課題に対して

- ・今年度、始めた「学校みんなで取り組むポジティブ行動支援」を推進していく。
- ・学校だよりやHP、学年だよりでも、規則正しい生活について積極的に伝えていく。